【ねがいましては】

平成２５年８月２６日　　*KYOWA SCHOOL*

第２７４号

「自然の恵み」

今年のキャンプはスタッフさんたちに恵まれたものになりました。

突然の父の天国への旅立ちから、なんとキャンプ前日が葬儀となり、まったく準備のできない常態で出発と思いきや、スタッフさんたちの活躍で準備もオーケーでした。

葬儀の疲れを感じる間もなく、毎年の景色の中で感じること・・・自然の中にぽつんと一つのいのちが生かされている。いつ何時、別れが来るかわからない。だからこそ『今』を大切に生きなければ・・・。

深呼吸をして、体中にしみわたる空気。こころが一瞬にして透き通っていくのを感じます。

今年は釣りをするぞという決意を固め、ＣＡＭＰ開始二日目早朝、西湖ではなく、４０分ほど車を走らせたところにある田貫湖へと向かいました。スタッフの子たちにも「明日、早く目が覚めたならつれていくよ。」と声をかけておいたら、なんと、Ｍちゃんは４時半に来てみたら、まだ私が寝ていたとのことで、戻ってしまったとのこと。Ｙちゃんは５時ピタリにきました。そして車の後部で「大」の字になってスヤスヤと眠るのかなと思いきや、初めて出会いました。野性の鹿です。二頭の鹿はこちらの様子をうかがっていましたが、私と目が会うと、さっと樹海の中へ消えていきました。「あっ、しかしか、鹿だよ。」という私の叫び声でＹちゃんも見ることができました。それからは、すやすや大の字・・・。

田貫湖は自然の湖というよりも人造湖に近いそうで、西湖よりもずっと小柄な湖です。さて、釣りをするかと思ったら、忘れ物がありました。道具の一部を忘れてきてしまったのです。

まっ、こういう失敗はよくあること。この景色を楽しまなければ・・・。私はＹちゃんと湖を一周することにしました。目の前には富士山が「どーん」と構えています。実は私たちが毎年使っているキャンプ場は富士山を背中にしょった形の場所なので見ることができません。その分、目の前には西湖がドカーンと広がっています。

歩いていると、ところどころで釣りを楽しんでいる人がいます。他愛のない会話を楽しみながらぽつぽつと歩きます。

「このスピードで生きてみたいな・・・。」私の中にひとつの思いが通り過ぎます。あまりにも忙しない日々の生活とのコントラストが浮かび上がります。やがて芝生の整った場所にさしかかります。明るい緑がさらにこころの中をライトアップしてくれます。

ふと見ると、ネコがいます。野良さんなら逃げてしまうだろうと思っていたら、逃げない。目やにで目は汚れているのですが、逃げない。「やあやあ、のどかな時間をありがとう。」こころでお礼が重なり出てきます。

約１時間３０分ほどの散歩は終了。歩いて湖を一周するのは初めてのこと、ちょっぴり満足感にひたりながらキャンプ場へと岐路に着きます。そこではすでに他のスタッフさんたちが朝食をつくり参加者さんたちに振舞っていました。

我が家のキャンプは生き方自由です。子どもたちは思い思いに遊びます。「かーごめかごめ・・・」だったり、カードゲームだったり・・・。その中にあって、男子中学生たちと男子高校生スタッフさんたちは少し違いました。

「働きたい・・・」その想いがとても強くあったようで、キャンプ場の方に仕事をさせてくださいとかなり迫っていたようです。私がオーナーさんのところでお茶を飲んでいると、そこへ次代のオーナー候補の次男さんがやってきて同じようにお茶を飲んでいました。すると、「実はKYOWAの子たちに仕事をくださいと言われていたのだけれど、さぼって戻ってきました。トイレの掃除、いつやりますかってすごいんですよ。」

いやー、君たち、やってくれますね。あれもこれも君たちから出た生きる道です。誰にも命令されない。誰にも文句を言われない。どう生きるかは、君たちで決めたんだね。すごい！

そして最終日、大きな団体が帰ります。その方々が使った約１５個ものバンガローの掃除をみんなでします。小学２年生のＭちゃんも炊事場のお掃除です。「ゴシゴシ、ゴシゴシ」これも特に私は何も言いません。スタッフさんたちが先頭きって動きます。その姿を見ながら小学生たちはお掃除をしています。

次々にバンガローがきれいになっていきます。まるでお風呂から出たての赤ちゃんみたいに・・・。

そしてもっときれいになっていきます。あなた方のこころです。

お掃除が終わり、さて帰りましょうかというときに、キャンプ場の奥さんからサプライズ、おいしいおいしいコッペパンサンド・・・。だれもご褒美など求めていない。ただただ、気持ちのいい汗をかかせていただいただけ。何よりも、社会人から大学生・高校生・中学生・小学生までが皆こころをひとつにして働いたこと。それがもっとも尊いこと。

オヤジ、天国で目を細めてくれているかい。オレ、何もしていないけれど、何かの縁でオレとつながってくれている子たちがこんなにも素晴らしい光景をつくってくれているよ。だからあなたにはただひとつ言いたいことがあります。「ありがとう」です。こんな私にしてくれたあなたに心から感謝しています。

さて、君たちに大きな大きなプレゼントが宿りましたね。ひとの喜ぶ姿が自分のしあわせに感じられましたね。

またいつもの生活が戻ってきます。でも、その生活の中に、人の喜ぶ姿をスケッチしていってください。きっと見えるはずです。「しあわせってこのことなんだね。」

ありがとう。